

国際標準規格に認められ、福岡から世界をリード

—半導体実装研究所などでの研究が世界的な快挙を成し遂げたそうですね。

「福岡大と福岡県、企業など産学官が協力して行ってきた研究で、大きな成果を出すことができました。スマートフォンなどに使われる電子機器の基板を今よりさらに小型化するための『部品内蔵基板』が、米国や英国など15カ国が集まった国際電気標準会議（IEC）の投票で国際標準規格として認められたのです。これまで表面に出ていたチップを中に埋め込むことで、従来の3分の1程度となる厚さ0.5^{ミリの}の電源モジュール開発にも成功しました。部品内蔵基板では、世界で初めてとなる国際標準で、日本にとっての快挙ではないでしょうか」

「国際標準規格になったことで、日本のメーカーは関連する分野において世界的に有利な競争を展開できます。これは日本の国益に直接つながるわけで、半導体の将来性を考えると、とても明るいことなのです。この分野においてはこれから日本が世界をリードしていくことになるでしょう」

前例がなくてもチャレンジ成功の陰に“福大魂”

—この研究の成功は、どのような背景に支えられていたのですか。

「福岡県や民間企業のサポートにも支えられましたが、いい意味で『前例がなくてもやってみよう』という福岡大の雰囲気や福岡大関係者の気質があったからこそ、これだけ早く実現したのかもしれない。学生も職員も新しいことや面白そうなことに対してのフットワークが軽く、みんなが一つの方向を向いて協力しだすと非常にスピード感があります」

「研究は1人でできるものではないので、学生や院生もチームの一員として協力してくれました。前例のない研究を進め、論文にまとめていく作業は簡単ではありませんでしたが、お互いの仕事や動きを見ながら率直な意見を交わし合うことで、技術は磨かれ、意識は鍛えられ、それ故、結実したのだと思います。挑戦する人に多くの協力者が集まって来る福岡大の環境は得難いです」

—一次の目標を教えてください。

「今回の『部品内蔵基板』を保存するた

めの設計データ形式を国際標準規格にするべく、動いている最中です。日本のものづくりの技術力の高さは周知の通りです。しかし、国際標準規格になった実績は非常にまれでした。こうした実績を残していくことで、国内のものづくりを活発にするための追い風をつくりたいのです。福岡から世界に通じるスタンダードを生み出し、日本を元気にする一助になればと考えています」



福岡大学工学部電子情報工学科
友景 肇 教授

ともかげ・はじめ 1953年、山口県生まれ。九州大学工学研究科博士課程修了、工学博士。スタンフォード大学客員研究員などを務めた後、92年から現職。2009～11年、エレクトロニクス実装学会会長。現在は、三次元半導体研究センター長、福岡大学半導体実装研究所長、デバイス実装研究会会長、日本電子回路工業会（JPCA）統合規格部会長、01年から半導体実装国際ワークショップ（MAP）実行委員長を兼任する。



福岡県知事に成果を報告する友景教授

「知ること」と「考えること」の違い 「行動すること」の大切さ

—福岡大に入学したきっかけは。

「体育の先生になりたくて入学しました。大好きだった高校の先生が福岡大出身だったことが福岡大に興味を持ったきっかけです。先生になったら、体育が好きなばかりを相手にするわけではないので、先生になるまでにいろんな人と触れ合っておきたいと考えました。福岡大は2万人も学生がいる総合大学なので、異なる考えを持つ者同士が刺激を与え合える環境であるところに強く魅力を感じました」

—いろんなチャレンジをしているそうですね。

「一つは入学前から参加しようと思った東日本災害ボランティアの『福岡大学派遣隊』です。実際に被災地に行くと、がれきの撤去をしていると、お箸やお茶わんなど生活のかけらが出てきて、そこにあった人々の暮らしが目に浮かびました。現地



福岡大学スポーツ科学部スポーツ科学科3年

伊達 綾子さん

広島県立大門高校（広島県福山市）出身

だて・あやこ 大学のサポートを受けて、1年次に東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」と米国海外研修に参加。2年次では北海道夏期セミナーと海外インターンシップに挑戦した。3年次の今は、学生の自由な発想から企画したプロジェクトを大学が支援する「学生チャレンジプロジェクト」に採択され、今秋キャンパス内で開催する「大運動会」の代表を務める。



福岡大は、9学部31学科を一つのキャンパスに擁する西日本屈指の総合大学。その広大なキャンパスには、2万人を超える学生が学んでいる。産学官連携での研究やグローバル人材育成にも積極的。「思想堅実」「穏健中正」「質実剛健」「積極進取」という建学の精神に基づいた全人教育を通して、約25万人の国際社会と地域を支える人材を輩出している。

に行ったからこそ感じるものがあって、今後長い目で見て、復興のためにできることを考えるきっかけになりました」

「大学のプログラムとして、米国への海外研修（1カ月）や北海道夏期セミナー（10日間）にも参加しました。これらの経験を通じて、社会問題に対する自分なりの考えが足りないことを強く感じました。米国ではルームメートから原発問題について聞かれ、北海道では北方領土問題や日本の民族問題が話題に上りました。しかし、それらの問題について知ってはいるものの深く考えたことがなく、自分の意見を自分の言葉で表すことができなかったのです。あの悔しさは忘れられません」

七隈地域での「大運動会」を卒業後も続く新しい伝統に

—最近、特に打ち込んでいることは。

「今年の11月に、七隈キャンパスで行う『大運動会』の準備です。主催団体の代表を務めています。前例のないことへの挑戦ですが、学生だけでなく、地域の方々にも参加を呼び掛けています。海外インターンシップに参加して、世界で活躍している方々に出会い視野が広がりました。その時『心をつなぐスポーツの偉大さに着目して“大運動会”を開こう』と思ったのです。『帰国後、『第11回学生チャレンジプロジェクト』に採択され、仲間たちと一緒に準備に取り組んでいます』

—「大運動会」開催への抱負を。

「これまで一歩踏み出し、チャレンジをしたことで、自分自身と向き合い、社会にどう貢献していけるのかを考えることができました。『大運動会』ではより多くの学生や地域の方々に、共に運動することで生まれる人と人をつなげるパワーを感じてほしいです。参加目標人数は1000人。第1回を成功させて、私が卒業した後も続いていく伝統にしたいです」

チャレンジする背中を全力で応援する 福岡大学

オープンキャンパスに行ってみよう！

開催日：8月8日（土）10:00～16:00
会 場：福岡大学（福岡市城南区七隈 8-19-1）
【お問い合わせ】
福岡大学入学センター ☎092-871-6631（代）

スポーツ科学部特別企画講演

当日はマック鈴木氏の講演も開催

会場：第二記念会堂2階1221教室
時間：13:00～14:15



この街を母校に
ふくおか学ぼう！
福岡大学

「世界初」「福大初」。挑戦は面白い

工学部の友景肇教授らが研究を続けていたスマートフォンなどの小型化を実現する「部品内蔵基板」が先日、国際標準規格として世界で初めて認定された。スポーツ科学部3年生の伊達綾子さんは、地域を巻き込んだ福岡大で初となる「大運動会」開催に向けて奮闘中。「世界初」「福大初」。初の試みに挑戦する2人に同大の魅力を聞きました。